JOURNAL OF YOKOHAMA YACHTCLUB

NO. 17 MARCH 2010

社団法人　横浜ヨット協会

Estasblished in 1886

目　　次

Ⅰ.理事会だより

１．２００９年を振り返って　理事長　阿久津壽

２．総務委員会便り　岡本恭一

３．財務状況報告　横田道生

４．行事委員会便り　小畑晴治

５．レース便り　石川俊雄

６．広報委員会便り　砂原一夫

Ⅱ.2009年の活動

１．セールトレーニング　櫻川芳男

２．横浜市長杯　松浦孝志

３．ヴェラシスカップ　波照菜　久保田浩二

４．横浜市児童招待乗船会　小畑晴治

５．「夢」の第一歩（クルーザーヨット教室を受講して）　荒木宏

６．ランデブークルージング　大場雄二

７．クルージング航海記　岡本厚二

８．新会員のご紹介

９．編集後記　砂原一夫

2009年を振り返って

横浜ヨット協会
理事長　阿久津　壽

松浦前理事長の後を受け、4 月から理事長を務めさせて頂いております。横浜ヨット協会は皆様がご存知のように、今年で設立 123 周年を迎える日本で最古のヨットクラブでございます。その伝統あるクラブの理事長に就任させて頂き、大変光栄に思っております。

私が高校生のころ、憧れはヨットに乗りスキーを楽しむ加山雄三でした。いつかは加山雄三のようにクルーザーに乗って海に出たいと思ったものです。たまたま、高校の先輩が油壺にクルーザーを持っており、乗せて頂いたのが、私とヨットの出会いでした。大学を卒業し多少ゆとりが出来たころ、高校時代の友人と共に念願のクルーザーのオーナーとなり、加山雄三に一歩近づいたのではないかと思ったものです。以来二十数年が経過し、当時のメンバーは殆ど居なくなりましたが、新たなクルーと共にヨットを楽しんでおります。

私は平成 13 年に小畑氏、玉井氏の紹介で横浜ヨット協会に入会いたしました。もともとヨットに乗るといっても、別にレースに出るわけでもなく、お台場や横浜港等の東京湾内のクルージングや年に何回か伊豆諸島にクルージングに行く程度で、ビール片手に海の上でゆったりと時間を過ごすことで満足しておりました。しかし、横浜ヨット協会に入会致しまして、ヨットの楽しみ方は基本的には変わらないのですが、会員の皆様方がヨットの普及やヨットを通じての青少年の健全な育成といった活動に取り組んでおられることに感化され、私も、ヨット・クルーザー教室のお手伝いや登校拒否児の体験乗船会、水上学園等に参加するなど、横浜ヨット協会のイベントのお手伝いをして参りました。これからもそういった活動を積極的に行ってゆきたいと思っております。

横浜ヨット協会は政府の進めている公益法人改革の対象になっております。公益性を前面に出して公益社団法人として存続するのか、それとも一般社団法人として歩むのか、これから選択を迫られることになります。どちらにせよ、横浜市に本拠を構えた当法人は、公益性の高い事業に積極的に参加し、日本最古のヨットクラブとして、横浜市、ひいては日本における確たる存在感を示せるよう頑張ってゆくことが大切ではないかと思っております。そのためには会員の皆様方のご協力が欠かせません。

歴代の理事長、そして会員の皆様方が築かれてきた伝統と格式を重んじつつ、当協会の発展に微力ながら貢献する所存でございます。まだまだ新米の理事長ではございますが、精一杯がんばりたいと思っておりますので、これからもご指導ご支援よろしくお願いいたします。

以　上

総務委員会便り

総務委員　岡本恭一

2009 年 4 月

総務委員会

岡本氏は、事務局より 4 月 23 日（木）上架を行った、鳳運河所属のカタリナ 36ft 艇について、上架中に船体が破損したとの報告を聞き、ヨット協会で責任を負うべきものか各位に問うた。責任の所在について、審議の結果、事前に自己責任を明確にした文書に署名をした上で上架する、文書については、サーベイヤーに他の事例等聞いた上作成すること、今後のビジター艇の上架は、33ft 以内・排水トン 6 トン未満とする。

2009 年 5 月

１．新入会員面接の件

　新規入会申請者、山崎博次（推薦者：赤井徳夫、玉井正登）。陸置も希望。推薦者の赤井氏より紹介があった。

種々質疑の後、阿久津理事長は、当協会の歴史や事業を紹介し、公益活動への協力をお願いし、山崎氏はこれを了解した。また諸手続きの説明を行い面接は終了した。

山崎氏退席後、審議を行った結果、全員異議なく入会が認められた。なお、2 週間の掲示を事務局へ指示した。

総務委員会

阿久津氏は、ビジター上架時の事故について報告を求めた。事務局はこれを説明し、また、上架時の責任について、サーベイヤーからは、上架依頼者に自己責任を負わせると言うことは、聞いたことがない。と言う話であった。今後について、砂原氏は、一筆を入れた上、上架するなどの措置を提案した。事務局は、岡本氏も同意見との見解を示した。阿久津氏は、当協会の収益事業の柱の一つでもあり、今後も続けて行くが、一筆の部分については、再検討とする。

2009 年 6 月

２．新入会員面接の件

　新規入会申請者、平田雅実（推薦者：松浦孝志、石川俊雄）。推薦者の松浦氏より紹介があった。

種々質疑の後、阿久津理事長は、当協会の歴史や事業を紹介し、公益活動への協力をお願いし、平田氏はこれを了解した。また諸手続きの説明を行い。面接は終了した。

平田氏退席後、審議を行った結果、全員異議なく入会が認められた。なお、2 週間の掲示を事務局へ指示した。

総務委員会
阿久津氏は、借地のフェンスが破られた件で、被害届を出し、警察は、磯子警察署の名前入り看板設置についても了解を得て、現在は、パトロールの強化を行っていることを報告した。また、フェンスへの看板の警告文について審議した結果、「私有地につき、立ち入りを禁ずる。敷地内の施設に損壊等あった場合、器物破損にて罰せられます。社団法人 横浜ヨット協会 磯子警察署」と決定し、3 か所 6 枚の制作、設置を事務局へ指示した。

阿久津氏は、ビジター艇上架の件について、上限を 33ｆｔまでと定めたため、今後は、規定に基づいて運用するよう事務局へ指示した。
AED 設置場所について、審議の結果、壁掛け用の BOX を購入し、トイレの扉を開けた直の場所に設置することと決まった。
会員の赤井氏より決算書に関する質問があった事に関して、内容は、決算書に借地権利金が資産として計上してあるが、権利金は戻ってこないものであるのに、なぜ資産として計上してあるのか、また資産であるならなぜ償却してないのか。の 2 点について、事務局は、役員へ連絡の上、横浜市、山岸税理士に問い合わせたところ、権利金は戻ってこないが、借地の権利を買った資産として、通常計上されるものである。償却も毎年計上すると言う考え方もあるが、通常借地契約は、2〜30 年に一度見直しがあり、その際に償却されるものである。これを受け阿久津理事長は、当協会は、現状の理解として採用している考えを示した。赤井氏は、引き続き調べた上、質問があればまた改めて行う考えを示した。

中村監事は、借地利用の収支について、支出が多いことを指摘し、コストに見合うものか審議を求めた。
阿久津理事長は、隣地を購入出来れば、借地の必要はなくなるが、審議の結果、借地料の値下げ交渉を行うか、会員へ負担を求めるか、継続審議となった。また、当協会は、ヨット置場として借地を借りている経緯がある。この借地について当協会が登記を行えるものか、審議の結果、弁護士に相談の上進めることとし、本件は、窪倉氏に一任した。

2009 年 7 月

（1） 総務委員会

事務局は、プライベートブランド TWO DOWN による自販機設置について、問い合わせたところ、現在の設置エリアから離れていること。設置場所は、駅周辺等 1 日 1000 本販売を見込める場所を優先していること。などから現状は設置は難しいことを報告した。

事務局は、8 月に満期が来る車両（クレーン、牽引車）保険、1 件 1 年 10110 円の継続について問い合わせた結果、引き続き継続して掛けるよう指示を受けた。

2009年8月
総務委員会

岡本氏は、阿久津理事長のお母様が亡くなったことを報告した。

2009年9月
総務委員会

岡本氏は、ブラインドセーリング大会への協力について、大会実行委員会よりの要望も踏まえて、競技艇の上架について協力する形をとることで、全員これを了承した。阿久津理事長は、本件詳細については、窪倉氏に、実行委員会委員長の堀氏と相談の上、事務局へ指示するよう依頼した。

事務局は、隣のボヤについて、9月20日午後1時45分頃火災を発見し、消防へ通報したことを別紙のとおり報告した。

2009年10月
総務委員会

岡本氏は、坂爪氏より話があった、YYC前の掘割川浚渫について、要望書を作り、小畑氏にもチェックを依頼し、提出した。審議の結果、阿久津理事長は、要望書の提出に賛意を示し、全員これを了承した。なお、阿久津理事長は、今後坂爪氏と相談の上、日程を調整し、自ら港湾局に出向くことを約した。

2009年11月
総務委員会

事務局は、中村氏より案内を受けた横須賀米軍付近の海上からの進入に関して、別紙の通り、注意喚起として提出した。

阿久津理事長は、現名誉会員である大儀見薫氏が、9月に亡くなったことを知り、対応について協議を促した。坂野氏は、弔意を表す手紙を送ることを提案し、上野監事はこれに賛意を示した。本件は、全員これを了承した。阿久津理事長は、直ちに送るよう事務局へ指示した。

阿久津理事長は、横浜市長が前任者より引き継いで実施している市民との食事対話会について、当協会の公益活動等PRする目的もあり、申込を行ったことを報告した。

2009年12月
総務委員会

事務局は、当協会前の掘割川浚渫について、坂爪氏より紹介を受けた横浜市市議会議員(横浜市港湾委員会委員)関勝則氏に連絡が取れ相談した。当協会作成による浚渫の要望書を関氏へ提出し、関氏自身が港湾局へ事前相談と言う形で話を通し、打診を行ったとの連絡が届いた。

港湾局よりの話として、横浜市港湾局は、今年度（平成 22 年 3 月末日まで）磯子橋周辺の浚渫を計画している、予算上問題なければ今年度 YYC 前も行うとの回答を得た。

予算上難しく、今年度当協会前の浚渫ができない場合は、改めて関氏より連絡が入る予定である。また、そのときは、次年度へ向けての「要望書」と言う形で港湾局へ提出すると、浚渫計画の中において優先事項として扱われる可能性が大きい。と言う話であったが、再度関氏より連絡があり、結果として、今年度の当協会前の浚渫は予算上難しい。次年度（平成 22 年 4 月以降）は、前年 7 月の市議会で予算が可決されるが、浚渫に対しては、予算がつかなかったこと。しかしながら何れ浚渫は行わなければならず、次の平成 23 年度予算に向けて、その予算作成前の平成 22 年の初夏には、要望書を提出することにより、優先事項として扱われる可能性を示した。以上経過を報告した。

中村氏は、当協会前面に置いてある台船について、出入りの邪魔であるため、港湾局へ連絡を入れるよう事務局へ指示した。
中村監事は、職員の給与等は、公務員に準ずるものであるが、定期昇給等事前に理事会に提出し、これを諮るよう理事会へ提言し、各位はこれを了承した。

中村氏は、借地の件について、船置き場として借りているため、艇上下架等に必要な河川の占用を取るべき考えを示した。その上で、借地前の河川にある放置艇に対しては、横浜市に撤去に動いてもらうべき考えを示した。

財務状況報告

財務担当理事　横田　道生

先の総会で既に報告済みの 200９年３月末締め「200８年度決算報告」の概要について正味財産増減書：財産目録にもとづき報告します。

０８年度の**経常収益(収入）2,452 万円**(前期比 106%)、**経常費用(収出）2,687 万円**(前期比 101%)で、**正味財産増減額(収支差）**は**△235 万円**(前期比 70%）となっています。従って、09 年３月末の**正味財産残高**は前年度末より 235 万円(前期 334 万円）減少し **39,435 万円**(前期 39,670 万円）になります。なお、経常費用（収出）の中には、建物・機械等の減価償却費 574 万円、退職給付金 111 万円の合計 685 万円が計上されています。

経常収益額(収入）2,452 万円(前期比 106%)の内訳は、艇保管料収入 1,429 万円(前期比 108%)、会費 288 万円(前期比 99%)、行事収入 196 万円(前期比 101%）機器装置使用料 177 万円(前期比 99%)、入会金 42 万円(前期比 100%）会員外使用料 103 万円(前期比 87%)、利息・商品売上・雑収入等その他収入 216 万円(前期比 123%）となっています。

経常費用額(収出)2,687 万円(前期比 101%）の内訳（①+②）は、①事業費支出 382 万円（前期比 108%)、内ヨット教室等の行事費支出 223 万円（前期比 105%11)。②管理費 2,305 万円（前期比 100%）となっています。

正味財産期末残高 39,435 万円(前期比 99%）の内訳（①+②+③+④－⑤－⑥）は現金預金・貯蔵品等の①流動資産 1,123 万円(前期比 106%)、土地・建物等の②基本財産 21,994 万円（前期比 99%)、修繕準備金・建替引当金等の③特定資産 15,290 万円(前期比 104%)、建物付属設備・什器備品等の④その他の固定資産 3,905 万円（前年比 90%)、未払費用等の⑤流動負債 20 万円（前年比 105%）預補償金・退職給与引当金等の⑥固定負債 2,857 万円（前年比 113%)、となっています。

公益法人と言う立場ではありますが、財産を目減りさせることなく運営してくには、より一層の**会員の増員**、艇保管場所の**空きを無くす**努力をすると共に、部外者の利用を含め**施設・機器装備の使用頻度を増大**させていくことが必要です。

皆さん、**YYC を活性化**させるためにも、夏冬を問わず土曜・日曜そして平日大いに**海原へ船出**しましょう。

渉 外 班

渉外担当は、田島会員・市毛会員・窪倉と３名で活動をさせて頂いております。
私達渉外班は、ヨコハマヨットクラブが地域の方をはじめ、神奈川県・横浜市・
東京湾・海愛顧者の皆様に認められるようお手伝いをさせて頂きます

活動は
横浜港の行事を管理している　ボート天国への参加
　（第三管区・神奈川県･横浜市各港長代理・各ハーバー・各イベント主催者）
近隣ハーバーとの会議・イベント等への出席・協力
同様な目的を持つ組織・団体との交流
などを行っております。
　当クラブの先達者の方が東京湾のハーバーの協議会を開催されていたと聞いたこともあります。日本最古のヨットクラブとして地域の方々・青少年、海を愛し、海に出て行く人々に伝統と文化を未来に繋いで行きます。

施設について

　今一番の課題と考えているのは牽引車の更新です。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、ステージが下がらない等の小さなトラブルが起きております。全面的なオーバーホールを行うと艇の上下架に支障をきたす事が考えられるため方法を検討中です。皆さんに良い案をご提示できるよう調査していきたいと思います。
　最近会員の方からご意見頂いた事として、ゴミ箱の見直しや隣地との見通しについての改善がありました、理事会で諮り対処していく所存であります。
　また、クラブハウスについても改修後約１０年が経過しそろそろ補修をしなければいけないところも出てくる時期かと思います。お気づきの点などあれば施設担当理事または事務局までお知らせ頂ければ幸いです。

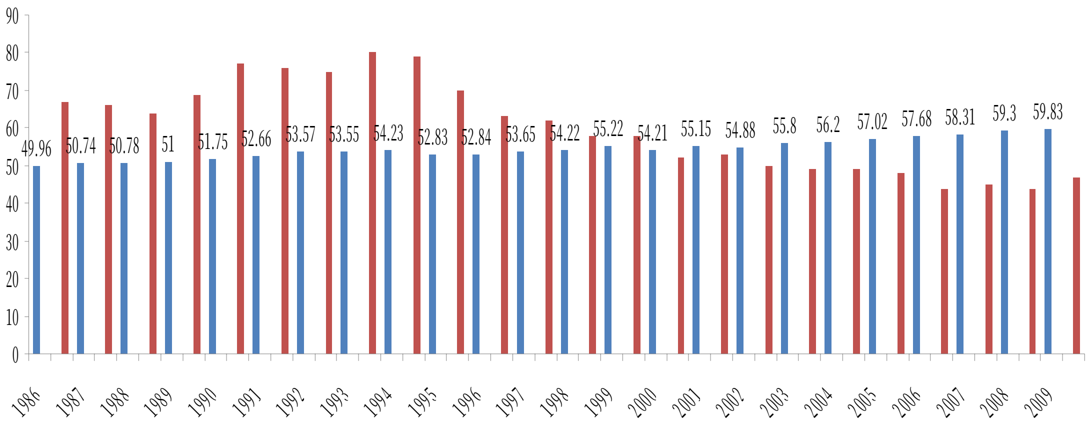
施設委員 坂野眞一

広報委員会便り

広報委員　砂原一夫

YYC１２５周年誌編集のため情報収集を始めました。YYC の活動記録は西暦2000 年を超えたあたりから PC ファイルの中に電子情報として保存されていますが、それ以前は書類の中に埋もれています。その書類の中から必要な情報を発掘する作業を事務局の協力を得て進めています。今年はその中から YYC の公益活動(ヨット教室や水上学園など)に１０年以上協力してくださった会員の「社会公益活動１０年表彰」を行いました。

過去２０年の記録の発掘作業を進めてゆく過程で興味深い数値データが集まってきています。下図は「YYC の会員数と平均年齢の変化」を示したものです。1986 年には平均年齢 49.96 歳だったものが 2009 年には 59.83 歳と上がってきています。2010 年には YYC の平均年齢は 60 歳を超え還暦を迎えることになります。YYC も高齢化とは無縁でいられません。会員の皆さまには色々インタビュウーをさせてもらいながら情報を集め、YYC１２５周年誌編集を進めてゆきたいと思います。



＊　グラフの赤い線は会員総数を示しています。

行事委員会報告

小畑晴治

セールトレーニング、市民ヨット体験教室、レクレーション大会以外の、行事に関するトピックス報告です。

横浜市子ども財団の学童招待：今春から、連携事業が始まった、横浜市子ども財団の学童向けのヨット体験乗船会が、7 月 4 日と 9 月 26 日の２度にわたり開催され、関係者を含め、横浜市内の各所から、延べ 33 名が参加しました。

納涼ビールパーティー：今回の新趣向として、若手クラリネット･カルテットが、クラシック～ポピュラーソングまで、さわやかで楽しい音楽を提供して納涼と親睦の集いに効果的な演出を図ってくださいました。

クリスマス親睦パーティー　セールトレーニングの表彰のほか、ギターとボーカルによるハワイアンソングのステージなど、寛いだ雰囲気の中で、来賓メンバーともどもよき親睦のつどいとなりました。

理事会報告 レース

レース委員長　石川俊雄

09 年度の YYC 主催のレースはセールトレーニング 5 回、理事長杯と横浜市長杯と、7 回予定されていましたが、年間 5 レース予定のセールトレーニングの内 2 レースが強風の為、中止となり開催した 3 レース中 1 レースは超微風で、参加した 12 艇中タイムリミット内にフィニッシュ出来たのはわずか 3 艇という結果でした、10 月のレースでは のらり が優勝、 HIRO が 2 位と頑張りましたが、年間成績は超微風のレースの成績でほぼ上位 3 艇が決まってしまいました。
ベイサイドマリーナオープンヨットレースは逆に、まったく風が無くスタートを 3 時間も延期したにもかかわらず中止となり、09 年ほど風に恵まれない年は無かったのではないかと思います。

理事長杯と横浜市長杯については、他マリーナの船が優勝という残念な結果でしたが、他主催レースでは、5 月の東京湾オープン 及び 9 月の第 12 回相模湾ヨットフェステバルでは U.LA.LA がクラス優勝　11 月のヴェラシスカップでは波照菜が総合・クラス A 優勝　PRONTO がクラス B 優勝　U.LA.LA がクラス B 2 位　11 月の水軍レースでは新会員のハーレムがクラス 3 位と会員艇が大活躍しました。

今年は、ちょっと頑張ればどの艇も優勝できるようレーティングを決めてセールトレーニングを開催したいと思いますので皆さん奮って参加をしてください。

又、運営を協力していただいた皆様、運営時船を提供してくださった、海字の高橋様、紙面を借りて御礼申し上げます。

11 月 16 日セールトレーニングスタート風景

2009 年度ｾｰﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ 総合優勝

U.LA.LA

艇名	1R	2R	3R	4R	5R	ポイント	年間順位
U.LA.LA	強風の為ノーレース	2	強風の為ノーレース	3	0.5	5.5	1
波照菜		3		5	6	14	2
PROPNTO		0.5		11	5	16.5	3
のらり		12		0.5	11	23.5	4
風神		12		7	9	28	5
ヒロ(E)		12		2	15	29	6
BRAVO RADIO		12		8	10	30	8
Big shot		22		6	2	30	7
フィリックス		12		9	13	34	9
フレスカ		12		4	22	38	10
VIVID		22		3	14	39	11
アンディアーモ		22		10	7	39	12
は〜れむ		22		13	8	43	13
アンドウサンク		12		12	22	46	14
ムサシ		12		22	12	46	16
グランドゥメール		22		22	3	47	15
アフィニティ		22		22	3	47	17
ALWAYS		3		22	22	47	18
パースタイム 2		22		22	4	48	19
源		12		22	22	56	20
アクアリウス		22		22	16	60	21

「今年の活動　レース」

「のらり」櫻川芳男

２００９年　第４回 YYC セールトレーニングにて「のらり」優勝！！
やっと万年ビリだった「のらり」が皆さんと一緒にマークを回航出来るようになって一気にライバル艇が増え、とっても楽しくなりました♪
今まで、陸に置かれた「のらり」の船底を見ていると何でいつもビリなのか不思議でした。
１５年前の最新鋭エリプティカルキールとラダー、上り性能が良いはずの狭いビーム、水の抵抗が少ない３翼フェザリングペラ、もう水線下は変えられません、でも、もっと速くなりたい。
そこで、「チェンジ」。
昨年後半からヘルムをベテランクルーに代ってもらい、私がセールトリム等監督役に回ったら少し速くなったような気がしました。
後は船を軽くする、なのですが。。。
クルージング主体の「のらり」にはなかなか船から降ろす物が見当たりません、とっても大切な電動かき氷機に自動りんご剝き機・パイナップル剝き機・電子レンジ・１００A のバッテリー３個・７０A のバッテリー１個・１５０L の燃料タンク・２００L の水タンク・アンカーが３個にチェーンが合計７０m・ウインドラス等が鎮座しております、
それでもテンダー用ゴムボート２杯と船外機２台と予備の２５ポンド CQR アンカーは降ろしてますが。
艇速を上げるには、残るは大きなジブセールのパワーとスキル（これは直ぐには無理)。
クルージング用品の方が先に欲しいので、何とかタダで大きいジブセールが欲しい！！！

「のらり」ジブセールがたどってきた道

１９９４年新艇の時のオリジナルジブセールは公表１２０％ですが極端にJが短いので同じ大きさの船のレギュラージブより少し大きめ位しかなくてパワー不足、ULALA チームに乗って戴いた時もレースでビリでした。

２００２年頃　３０fの「トムボーイ」から戴いたゼノアセールが大きくて「のらり」にピッタリ、少し速くなってブービーが多くなりました。

２００６年　外洋クルージングを夢見ながらマストを交換、フラクショナルリグをマストヘッドリグにして強風でも帆走出来る変則カッターリグにしました。

変則カッターリグではセールが小さくなりパワー不足で、暫くレースに参加する気にもなれませんでした。
そこで、２００８年ボロボロの中古ハイテクゼノアセールを見つけて参戦、見事にロケットスタートが出来てもやっぱり走り負けします・・・
もぅ、出来るだけぎっりぎりでかいゼノアセールが欲しい！！！

２００９年８月、「のらり」のジブシートトラックに収まるぎりぎり大きな微風専用１８０%ゼノアセールがデビューしました。

２００９年第４回 YYC レース大きな大きなゼノアセールを揚げた「のらり」はスタートで出遅れたのに、ゆっくりとゆっくりと前方の船を追い抜いて行った。

ありえない・・夢の出来事です。

大きなゼノアのおかげで、やっとレースに参加してるんだなぁ～って気分になれました、スターンに描かれたペンギンもゴール前に沢山のヨットを眺められて幸せです。

2009 YYC 横浜市長杯レース

レース委員長　松浦　孝志

前レース委員長の安部さんから「いつもレースを楽しんでいるから、今年の YYC 市長杯レースはレース委員長をやってみんなを楽しませるように」と言われ、レース委員長を引き受けることとなりました。

このレースは YYC 設立１２０周年の記念事業のひとつとして始まり、今年で４回目となる YYC の大きな事業です。今年から横浜ボート天国の一環として実施されるために役所への許認可作業がだいぶ楽になりました。とはいっても保安庁、港湾局、市役所文化局への書類の提出に何回も役所へ行き、説明そして修正が必要です。そのため事務局が奔走してくれた結果、６月下旬にはすべての許認可がとれ、最後に事務局と共に小柴漁港と八景島マリーナに挨拶へ出向きました。

４回目とはいえ、まだまだ経験不足のため神奈川県ヨット連盟の福島氏にご助力をお願いしました。

いよいよレースが始まります。前日の艇長会議から始まり、当日早朝からスタッフミーティング、フラッグ類の確認、マークの積み込みを終え、レース海面へ向かいました。海面は東の弱風が吹いています。風が弱くしばらく風待ちをすることになりました。天気予報では東から南へシフトするはずですがなかなか風向は変わりません。しばらくすると南東からそよそよと風が入ってきました。早速マークボートへ指示し、１マイル先に上マーク、そしてサイドマーク、下マークを設定しました。第１回答旗を降ろし、５分前、４分前、そしてスタートです。南東からの軽風のなか全艇がスタートして行きました。上マークトップ回航は「ハテナ」です。それにつづいて、レース艇が回航してゆきます。最終艇が上マークを回航するころには、２周目のトップグループがすぐ後ろに迫ってきました。帆走指示書では６レグでしたが、微風にため全艇をフィニッシュさせるためにはコース短縮をせざる得ませんでした。福島さんと協議し、コース短縮を決め、短縮旗を掲揚し、マークボートに参加艇へコース短縮を通達するよう指示しました。その後、風もやや上がり、無事全艇フィニッシュすることができました。無事にレースが終わることができレース委員長としてほっとすることができました。何より事故がなかったことが幸いです。

レース後は YYC 恒例の焼きそばパーティーで大いに盛り上がりました。総合優勝はうまく風の振れをつかんでノーミスで走りきった「ネービーブルー」が獲得されました。

準備、レースの運営、パーティーの準備にご協力いただいた多くの皆さんのおかげで無事にレースを実施することができました。紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

２０１０年も今年以上の艇の参加を期待しています。またまた皆様のご助力をお願いいたします。

ヴェラシスカップ

波照菜
久保田浩二

毎年 11 月初旬に行われるヴェラシスカップ、今回で 3 回目の参加です。
浦賀周辺のヨットに加え、横浜、相模湾からたくさんの参加があります。
コースは、浦賀沖スタート　→　香山根　→　剣崎沖　→　浦賀沖ゴール　となっていて、風向きにより周回順が変わります。
毎回、豪華景品がたくさん出るため皆さん力が入ります。

今回は、プロントと共に前日より浦賀入りし気合いが入っています。しかし、目的は、、、入港したらサッサと船を後にしプロント御用達の小料理屋のへ、レースの戦術の話は一切なしで酒を飲みヨタ話しでもりあがり泥酔状態へ。

二日酔いで、迎えた朝は、酔いも一気にさめる 10mオーバーの風が吹き、益々吹き上がってくる気配です。プロント、波照菜に、朝到着したウララの加えＹＹＣからは、3 艇で参戦です。

波照菜はジブアップに手間どい、臨戦体制の入ったのはスタート 2 分前。no3＋フルメインで剣崎沖のブイを目指します。
全員フルハイク、頭から波をカブるヒドイ状況なのに、皆さんナゼか不気味に二ヤつています。パンチングを受けるたびに頭のネジがハズレれて行っているようです。

剣崎沖のブイを回航しスピンアップ、さっきまでの二ヤツていた顔が一変して皆さん目が吊り上ってきました。サーフィングしだすと前の波を追い越しさらにスピードアップ。香山根とのほぼ中間位置でジャビングのコール、全員ポジションにつきアクションに入る寸前にイキナリのブロー！！！船がアリえない角度でブローチング
　下半身を水没させているもの
　ハンドレールにぶら下がり、足をバタつかせているもの
　恐怖に顔をひきつらしているもの
あの状況でもスキッパーは船の操船に集中し、船を完全にコントロールさせると、意気消沈しているクルーに　「カツ」　を入れ、いったん途中まで降ろしたスピンのアップのコールで再びスピンラン。

ジブを上げ香山根を回航し、笠島経由でゴールを目指しますが、ブローチングをしている間に後続艇がかなり近づいてきています。このタイム差では、、、スッキパー以下クルー一丸となりどうにか、ファーストホームを死守できました。

アフターパーティーに参加し、椭に景品をたくさん頂きました。波照菜はこの日の目玉の景品「電動アシスト付自転車」まで頂き、会場はブーイングのブローが吹きまくっていました。

クラブレースでしっかり練習をし、来年もＹＹＣで豪華景品たくさんゲットしに行きましょう。

「仕立て船で釣りを楽しみ、釣果を味わう」レクレーション大会

小畑晴治

１０月２５日（日）。今年の「レクレーション大会」は、日ごろ釣りを楽しむ機会の少ないヨットのオーナーやクルー、市民ヨット体験教室受講者に、釣りの醍醐味を楽しんで頂こうという企画でした。お隣の釣り舟協同組合のを根岸丸をチャーターし、朝７時半、道具もエサも全てお膳立て、準備万端の出航となりました。

あいにく、小雨混じりの寒い天候とチョッピーな波のため、前夜呑み過ぎ者！と、海洋気象に理解不足の初心者！たちは、船長が、エサの付け方と棚の取り方の講習をしてくれて、スポットを探し当てる前に、自家製コマセを撒き！！マグロになってしまいました。少々、気の毒なことでしたが。

数カ所のスポットで試し釣りの後、ようやく釣れ始めたのは、鯖と鯵でした。棚を微妙に工夫して、イシモチをゲットした女性参加者も居ました。昼過ぎに船宿に戻り、暖かいお茶とけんちん汁で、一同ようやく元気を回復しました。

午後は、釣果を楽しむ会を開催しました。アンドゥー・サンク、フィリックスメンバーの釣果をご提供頂き、鯵はカラアゲに、鯖は刺身にして、味わいました。銀座の料亭でフグなども扱う女流調理師Ｓ嬢の包丁捌きによって、磯子の鯖も、切面のつややかな一級の刺身に変身しました。願わくば、もう少し大型の魚が素材にできるとよかったのにとの思いが残りました。

これまでのレクレーション大会と少し趣向を変えたことで、喜んでいただけたようです。関係者のご協力に感謝申し上げます。

「夢」の第一歩（クルーザー講習を受講して）

３２期　荒木　宏

「最近顔色が悪いけれど、肝臓でも悪いんじゃないの」と職場の同僚達。私が「これはヨットでの日焼けなの」と答えると、「オォォ！優雅、リッチ〜。今度乗せてよ」との反応。「ハハハ、そのうちね。未だ講習で乗せて貰っているだけだし・・・」と後半は聞こえないような声で。

今年７月ふと目にした小型船舶操縦士免許受講（受験）のパンフレット。見れば『１級免許は航行の制限なし、世界中の海が待っている』などと謳っている。ならば、「夢」は大きくプレジャーボートで世界１周。すぐさま受講したものの、講師から、ボートでの世界１周は「制度的にも金銭的にも実質無理。クルーザーヨットなら世界１周した人もいるよ・・・。でもねぇ・・・(笑)。」

そうなの、じゃぁボートは諦めヨットで優雅に世界１周。でもヨットってどうやって操船するの。

ということで、先ずはディンギースクールへ。初めて乗るディンギーに悪戦苦闘、更に海水浴（落水）や格闘技（ブームパンチ）まで。数日通ったが、ヨットについては解ったような解らないような。併せて、超メタボ体型を解消すべく、Ｗｉｉでフィットネス。機械曰く、貴方は「太りすぎです」「バランス感覚は７０歳代です」。はぁ、そうですか。

いずれにしても、クルーザーヨットの講習をインターネットで検索。

数多いスクールの中から、クラブとして長い歴史、受講期間が比較的長期、そしてなんといっても受講料がとても安い横浜ヨット協会（以下「ＹＹＣ」）に問い合わせ。受講申込期限が若干過ぎていたにもかかわらず、鈴木事務局長の親切丁寧な対応に感謝、直ちに申し込み。

さて、９月初旬の講習初日、ＹＹＣには２０人程度の受講生。うち女性は５、６人。最近は若い人がヨットに乗らないとは聞いていたが、私を含め皆さん少し年齢が高め、見た感じ４〜５０歳代が多いか。

ＹＹＣ理事長の開講挨拶の後、午前中は受講に当たっての心構え、「ヨットから落ちたら助からないよ」という趣旨の安全講習及びロープワークの練習。教本と練習用のロープが配られ、これらはお持ち帰りとのこと、この受講料でこんなものまで貰えるとは。

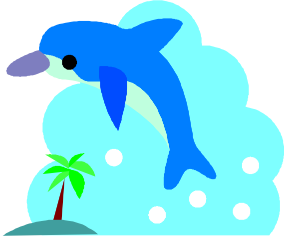
午後、いよいよＹＹＣ会員のヨットへの配艇。皆さん名前を呼ばれ、それぞれのヨットのオーナー（船長）の下へ。結構緊張しながら私の番を待っていると「荒木さん、アクアリュース中村船長・・・。あれ、中村さんいませんねぇ。じゃ後で紹介しますから」と、最初から拍子抜け。

アクアリュース（以下「アクア」）には、若い頃にクルーの経験が少しあり、私より若干人生の先輩であるＳ氏、ヨットレースに出たことがあり、レースは本当に楽しいわよというＫ女史、私の３人が割り当てられ、暫く待っていると・・・。「ホーイ、儂」と手を挙げて現れたちょっと年配の方がこれから３ヶ月間お世話になるアクア船長の中村オーナーでした。よろしくお願いします。

早速アクアに乗船し、オーナーほか３人と受講生３人でＹＹＣを出港。ヨットはなぜ風上に向かって帆走できるかなどのレクチャーを受けながら、東京湾磯子沖へ。風はちょっと弱かったが、天気が良く気分は爽快。途中少し舵（ラット）を持たせて貰ったが、東京湾は巨大船からタライ船まで様々な船がうじゃうじゃ居て危なくてしょうがない。「おら、そこのモーターボート、引き波立てて近づいてくるな。そこの釣り船、海の真ん中でぷかぷか浮いているなよ」と言いたい気分。

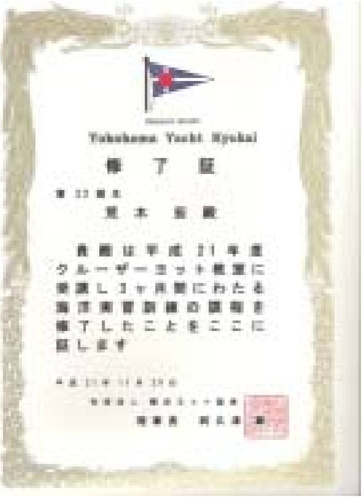
ＹＹＣ寄港後、オーナーから今後の講習スケジュールや出港はいつも朝９時半だから遅れないようになどの説明があり、最後にオーナー曰く「クルーザーヨットの醍醐味は外洋をゆっくりはしり帆走、皆で船で寝泊まりして、これが楽しいんだよ、これが・・・」なお、Ｋ女史を見かけたのは、この日が最初で最後でした（レースやってますか)。後日、綺麗な海で風に漂っていたいわとＨ女史が新たに受講することに。

講習期間中は、ほぼ毎休日乗船させて貰い、その間、セールの上げ下ろし、操舵、離着岸に加え、テンダーの操船（Ｕオーナーお世話になりました)、連休には船中泊でのクルージング。更には、Ｓ氏発案のヨットの塗装作業まで。そして、講習のお復習いとして参加した（させられた）ものの、私のミスで散々な成績となってしまったクラブレース（セールトレーニング）など様々なことを体験させて貰ったところ。また、ＹＹＣの皆さんからヨットに関する体験談を伺うこともできたし、講習の帰りには、Ｓ氏とアルコールを入れつつ、素人ヨット談義に花を咲かせることも。



ところで、今回受講して実感したこと。ヨットの操船は本当に難しい、１人前になるには１０年余かかるなどと言っている人も。ヨットでの世界１周なんて夢の又夢、生死に関わる冒険じゃないの。免許講習の際に講師が笑っていたのも頷ける。今は、とりあえずヨットを安全かつ円滑に操船できるようになることが目標。「夢」はそれから改めて見ることにして。

そして、いよいよ１１月末の講習最終日、諸般の事情により他の受講生とは別にＳ氏と私の二人だけで理事長から修了証を頂くことに。毎週ＹＹＣに行くことが楽しみでしかたなかったが、これで講習も終了し、今後はなかなか来られないと思うと寂しい限り。この３ヶ月間中村オーナーを始め、アクアの皆さん、ＹＹＣの皆さんには本当にお世話になりました。しかし、今後はどうしたものか。



最後にオーナーから「ところで、今後の予定だけど、１２月は海の状況は悪いけど、いつもどおり、朝９時半出航予定なので、都合の悪い場合は言ってね・・・。」

アクアの皆さん及びＹＹＣの皆さん、講習は終わったけれど、そういうことなので、今後とも引き続きご教示方、よろしくお願いします。そして、自分でヨットを操船できるようになったら、どんな「夢」を見ようか・・・。

ランデブークルージング

HIRO 大庭 雄二

11 月 20 日、YYC から原稿執筆依頼が届きました。
テーマは「ランデブークルージング」。
ああ、そういえば、レースイベントで優勝したような…優勝すると原稿執筆依頼が来るというのは、決まりのようですね。では、頑張って書いてみます。

10 月 11～12 日に恒例となっている YYC ランデブークルージングが行われました。
参加艇は 50 音順に、アクアリウス、IO、グランドゥメール、波照菜、HIRO、ムサシの 6 艇。
今年は「レースイベント」なるものをやるようです。
ルールは、「YYC を出航し、セールアップした時刻（スタート）　三崎港へ着岸した時刻（フィニッシュ）」というもので、エンジン使用も ok とのこと。
参加艇の中で HIRO は一番エンジンが非力ですし、絶対に勝てるはずもないので、タイム計測はするけど順位は気にしないことにしていました。

そしてランデブークルージング当日。
首都高の渋滞で、YYC に 9 時前に着く予定だったのが、10 時過ぎてしまいました。
それから出港準備をして、YYC を出港したのが 11:10 になりました。
参加メンバーは、大庭と山崎と秋の生徒さんである川井さんの 3 人だけです。

いそご釣りセンター前でのセールアップが 11:30 です。
三崎集合時間が 16 時だったような気がしていましたので、あまり時間がなく、とにかく急ぎました。

途中、「アシカ灯台と黒／黄色浮標(東方位標識)の間は浅瀬だから通れないですよ」と川井さんに説明しながら浮標の沖 200 メートル程度を通っていると、川井さんから「通るヨットがいますよ」との声。
潮が引いているとパワーボートでも座礁してしまう場所のはずなので、通れるわけがないのですが、なんと 35ft 程度のヨットがアシカ灯台のすぐ沖側(浮標との間)を通過しました。
もし、座礁したらレスキューに行かないとならないなと思いつつドキドキして見ていたのですが、当たり前のように通過して、その後も普通に進んでいきます。
もしかして、満潮だと通れるんですか？(通れると言われても自分は怖くて通れませんが…)

その後も淡々と三崎に向かいます。
三崎漁港でムサシに横抱きしていただいた(着岸)のが 15:20 でした。
3 時間 50 分で着いたことになります。

自分としては、16 時までに着けたので、ホッとしました…が、案内をよく読むと、「開始　午後６時」としか書いてありません。もう少しゆっくりでも良かったのかもしれません。

17 時くらいに明日 YYC まで乗ってもらえる、石川さん、生沼さん、坂野さんが合流となりました。
川井さんが日帰りなので、２人で回航しなくてはならないところでしたが、石川さんと生沼さんが一週間前に、坂野さんが前日に乗ってくれるという連絡をいただいて、安心して飲める環境を手に入れました(笑)

立花での宴会の席で、レースイベントの表彰式があり、なんと HIRO は優勝してしまいました。
勝因(?)は、「首都高渋滞」と「集合時間の勘違い」です。はい、まるっきり狙っていません。
立派な楯をいただきました。かなりカッコ良い楯です。

その後も宴が続き、マグロのかぶと焼きの解体ショー(?)があったり、たくさんのマグロ料理を食べ、お酒を飲んで、大変盛り上がって、酔っぱらい続出の中、お開きとなりました。

一次会終了後、川井さんが帰りました。お疲れ様です。
二次会は、波照菜と IO の大型２艇が横抱きしているフローティング宴会場に、お酒とツマミを持ち込んでの宴会です。人数は 20 人オーバー。
さすがに全員は IO のキャビンに入りきれないので、IO のデッキ上で宴会です。暑くも寒くもない時期なので、デッキ上で丁度良いです。

散々飲んで、10 時半くらいに消灯と言われ、オーナーの坂爪さんがまだデッキ上で飲んでるのに、いきなり照明を消されてしまい、IO での宴会は強制終了。
飲み足りない人(?)が隣の波照菜に移って、宴会継続…って、どんだけ飲みたいんでしょうか(笑)

しばらく飲んで、12 時になったので、こちらもお開きになりました。
うらり前のポンツーンに YBYC のフォンテーヌが係留されていたので、石川さんが寄ろうと誘ってくれましたが、すでにかなり眠い状態だったため、大庭はここで脱落して HIRO に戻りました。

すぐに寝てしまったため、石川さんと坂野さんがフォンテーヌから戻ってきた時の記憶はありません。

そして翌日、市場の食堂で朝食を食べて５人で出港です。
時間もあるし、風も 10kt 前後なのでセーリングで帰ることにしました。

途中何度か IO とすれ違いましたが、IO は少し風が落ちたところでジブダウンして機帆走で帰ってしまいました。他の艇とは海上で会えていませんが、なんとか IO とランデブー出来ましたので、「ランデブークルージング」成功です。

HIRO は観音崎までセーリングしたところで、風が落ち、雨が降り出しそうだったので、エンジンをかけて機帆走、雨が降る前に YYC に帰港となりました。

帰りに乗艇いただきました、石川さん、生沼さん、坂野さん、ありがとうございました。乗っていただけたのでセーリングも出来ましたし、安心して帰ってくることが出来ました。

高橋さん、幹事のお仕事、お疲れ様でした。
ご苦労いただいたおかげで、とても楽しいランデブークルージングとなりました。ありがとうございました。

2010 年のランデブークルージングもきっと楽しめると思いますので、今まで参加されている方も、参加されていない方も、都合をつけて、是非一緒にクルージング＆普段話す機会が少ない他艇とのコミュニケーションを楽しみましょう。

2009年　“風神“夏のクルージング　　　　　　　　　　　　　記　岡本厚二

今年のクルージングは、YYC～三崎港か保田漁港１泊～三宅島阿古湾２泊～新島１泊～保田漁港１泊～YYCという、８月８日から５泊７日の予定で行った。
各自、乗船と下船を何処でするのかをオーナー（兄）と１週間前にメールで連絡を取り合い、予定を合わせた。風神のクルージングは、出来るだけ外洋のきれいな海でセーリングを楽しんでもらおうと、途中の参加、退船など自由にて行っている。

出発の朝。8/8　9：30　水100Ｌと荷物を積み込み、YYCを出港、メンバーは３名、オーナー（兄）、宮崎君、私だった。宮崎君は、2009年夏のヨットスクールの生徒で、長期クルージングは初めてで、船酔い止めを飲んで長期の船旅に備えていた。1時間ごとにラットとることにし、猿島近くで宮崎君の操船となった。風は5～6m、横風フルメイン、フルジブ、なれないので多少蛇行しながら進んでいた。風が少し強くなったが、アシカ島を過ぎると風向きも変わり、ジブを巻き取り機帆走にした。
三崎港のボート用岸壁は、ヨットは 4～5 艇、大型のモーターボートは４艇が停泊していた。連休初日の為か混んではいなかった。
日が落ちて、小型釣ボートが着岸出来ずにうろうろしていたので、風神にともだきをしてあげた。
その船は、5 月に購入したばかりで、始めて泊り込みの釣りに来たが、岸壁がいっぱいで止められずに、困っていたのだった。お礼にと、釣り上げたばかりの生きた大きなアジを戴いた。それを刺し身で食べた。それはそれは、脂が乗ってとても美味かった。

仕事の都合で三崎漁港から参加する阿左美君が、予定の 21：00 なっても到着しなかった。阿左美君は、2007年度のヨットスクールの生徒で風神のクルーになったのだ。
私はその後、明日の出港に備えて早々に寝てしまった。24：00過ぎに、話し声が聞こえた。目が覚めて、見てみると、阿左美君、宮崎君がビールを岸壁で飲んで盛り上がっていた。阿左美君が無事に着いたのだな、と思った。その２人はその後、何時頃に寝たのか、私はまた眠りについてしまったので分からなかった。
次の朝、目が覚めると、6：30を過ぎていた。６時出港、三宅島２時を予定していたからは大分遅くなってしまい、慌てて皆を起した。朝食のパン、ミルク、味噌汁、おにぎり、お茶、サラダ等を腹に詰め込んで、三崎港を出港した。風向きも良く、クローズホールドで進んだ。操船順番は、兄、阿左美君、私、宮崎君で、1 時間交代にした。しかし、阿左美、宮崎両君は寝不足のため、すぐにデッキで眠り込んでしまった。

私の操船の順番が終わってから、飛行機仕掛けを流し、私一人でトローリングを始めた、２時間ぐらいしたが、まったく釣れなく、トローリングのスピードが少し早すぎるのかもしれないと思った。波頭が少し白くなってきたので、仕掛けを収納し、セーリングに集中するようにした。

ヨットは、伊豆大島、波浮沖を抜けて、新島の横を過ぎると風も弱くなり、一路、三宅島阿古湾に向かった。何も見えない海上だが、目標の島を見つけるのは簡単なことだった。水平線上の雲を見つけて、そこに向かえば良い。なぜなら、島にぶつかった風が上昇し、雲ができるので雲を目指せば、そこに島があるからだ。そのまま、1〜2 時間走ると、ぼんやりと島が見えてきた。おおむね、方向が合っていれば良いと思う。

以前は、夜間航行時には、まず灯台の光に向かって、島影を確認し、その島に向かった。それから、海図で現在位置を確認した。島を抜けてからは、次の目標の灯台を海図とハンド型の GPS を決めて方向を修正する、という手順だった。今は、魚探付 GPS と海図で時々確認している程度だ。GPS は正確だが、思っていたより、バッテリーを食ってしまうのが難点だ。

ヨットが、三宅島に近づくにつれ、硫黄の臭いがしてきた。まだ、阿古湾まで 2〜3 時間以上かかる距離なのに、少しどきどきした。このあたりの海では、防毒マスクが、必要なのかも知れないなと思った。

島の周りには、白波が立っていた。洗岩か、暗岩か？と少し不安に思い少し沖出しをした。島おろしの風により、白波が立っていたのだった。ヨットを島に沿って走らせ、島の建物や家々を探してみたが、見えるのは、溶岩が流れて出来た切り立った崖ばかりだった。以前とは、海岸線が変わり、新しく、防波堤が各所に出来ていた。阿古湾も将来、船着き場を広げる為か、入口に大きな防波堤が出来ていた。ここも以前とは、景色が異なっていた。

湾内に入るころに急に風が強くなりだした、湾に入ると、今朝、羽田から飛行機で三宅島に着いた、メンバーの妻の二人、裕子さんとメアリーさんがすでにレンタカーを借りて迎えに来ていた。14：30、湾の入り口近くに舫った。湾内には、ヨットが 4 艇、大型のモータークルーザーが 2 艇、停泊中だった。私達は、2 日分の荷物をレンタカーに積みホテルに向かった。

ホテルは、港から歩いて5分ぐらいのところにあった。釣り客、ダイビング客、家族連れの観光客などが来ていた。ホテルでしばらく休憩した後、丘の上の風呂屋に、レンタカーで向かった。

風呂屋に向かう途中で驚いたのは、交番前の公衆トイレがウォシュレットなっていることだった。また、風呂屋の曲がり角にある、レンタルバイク屋とバイク屋の向かいの家がないことにも気づいた。ここは、以前バイクを借りに行った時に、バイク屋の主人が出かけていて、バイク屋さんが戻るまで、お茶と、山梨の親戚から送られた、山梨産の冷えた桃を出してもらった家だったのだ。風呂屋に行くまでの家々が空き家となっていることも目に付いた。雄山の噴火で、どこかに引越ししてしまったのかも知れないなと思った。

風呂屋の湯は赤錆色で、海水風呂なので味は塩辛い。以前はタオルを風呂につけると真っ赤になったが、以前ほど赤くならなかった、泉質が変わったようである。露天風呂から海を見ると、白波が立っており沖合に強風の中、阿古湾に向かう小型ヨットを発見した。距離を考えると、まだ 1～2 時間はかかるだろう日も暮れかかる時間で他人事だが、早く着いて風呂に入りたいだろうなと思った。

ホテルレストランでの夕食は、地の刺身を注文した。飛魚のカルパチョ、キンメの煮付、焼き魚など大変美味しかった。その後、ホテルロビーのテレビで台風が近づいていることを知った。予報では、二日後三宅島直撃となっていた。

食事をしていた、他のヨットのグループも皆テレビの前に集まり、台風情報に釘付けになっていた。我々の行程も台風襲来にそなえ変更を余儀なくされる状況になり、いろいろな選択について相談し、翌朝の天気情報で決断することにした。今晩、八丈島に出港するヨットもあるようだったが、どうするのだろうと思った。

次の日の朝食後、もしかすると早めの離島も考えられ、島初めてのメンバーが大半なので島内見物を行うことにした。

レンタカーで、三宅島飛行場、天然記念物のアカッコーのいる三四郎池、坪田地区、溶岩につぶされた小学校の校舎後など、近くの日本建築の家を見学に行った。ここは島民のお年寄りの集会所になっていた。そこで、観光名所を聞き、見晴らし良い展望台に行った。そこで台風が来る海を見て移動しようとしていたら三宅島役場広報課の方が車で追いかけて来た。何かと思ったら、観光案内ポスターを作るので、モデルになってくださいと言われ、6 名全員で展望台から海を見ているところを撮影された。元々は島民がモデルでウクレレを弾くところを写す予定だったらしいのだ。
その後、ホテルに戻り東海汽船の桟橋に一人で釣りに行った。とばし浮きとかごにアミこませをつめた、2 本針仕掛けの釣りだ。以前は、これを投げるとムロアジ、シマアジが釣れた。しかしこの日は、風もとても強く、釣りにならなかった。

夜、阿左美君の携帯に連絡があり台風対策のため、非常召集になった、その為、阿左美、宮崎、宮崎メアリーさんの三名が戻ることになった。翌朝出発の飛行機、東海汽船などの手配をするが、やはり台風のため予約が取れなかった。
メアリーさんは、ヨットに乗るのは 2 回目だった。1 回目は横浜港の花火大会で、今回はきれいな海と三宅島、新島を観光するのを楽しみにしていた。船酔いをするといけないので、わざわざ羽田から飛行機で来たのに、きれいな海を満喫することなく帰ることになってしまった。
その日の夜は、風の音と雨の叩きつける音で目が覚めた。やはり予報通りに台風は来ていた。
朝食後、東京に戻る飛行機や船を探した。しかし、台風で三宅飛行場に飛行機が飛ばず、東海汽船も風向きにより出港予定の港が決まらなく着岸時間も定かでない状態が続いていた。しかし昼になりようやく、出港する港が決まった。東京に戻る最後の船だった。その船に幸運にも予約が取れた。次に来る東海汽船はいつだかわからないそうだ。

船の出港時間に合わせて､島のあちらこちらの民宿､ペンションから送迎の車が来て、港は大渋滞となった。
その船で、殆どの観光客が帰り、ホテルや丘の上の風呂は、ヨットやボートで来た人しかいなくなり島の祭りも中止となってしまった。

翌日の昼過ぎに､宿に残留した人たちにホテル主催の釣り大会が行われた｡坪田漁は、波も風も穏やかな内湾で、ダイバー船の発着場だった。参加者は約 15 名だった。竿、仕掛けをホテルの釣りクラブのメンバーが付けてくれるサービス付きだ。殆どの人が釣りの経験がないようだった。2 本の釣竿を借り釣りを始めた。シマアジ 3 匹とハリセンボンを釣った。ハリセンボンは 30CM ぐらいある大物だったが、食べられないので、海に放した。その日の夕食は、先程釣り上げた、シマアジをフライで食べた。3 人で 3 匹と数もちょうど良く、美味しかった。

三宅島・阿古湾の台風通過について湾内の状況については、通過時おいても湾内が波立つことはなかった、また、外海は巨大な波が島に向かって押し寄せていたが防波堤が高いことと、新たに今年できた湾前面の新防波堤が打ち込む波をおさへ湾内には影響をおよぼさなかった。風も湾が建物、防波堤など囲まれていることとで吹き込みも大してなかった、なおかつ漁船が少なく、岸壁につけられることなど台風の避難港としては最適と思われる。
三宅島も 3 日目になり、台風も通過し朝食後、ホテルの人に、ヨットまで送ってもらい 9：00 阿古湾を出港、伊豆大島に向かった。兄、裕子さん、私の 3 名で、男性は 1 時間 30 分、女性は 45 分交代で操船した。台風後の島おろしの風が吹き荒れ、時々GPS を確認し、波浮港へ一気に入った、約 5 時間程であった。湾内は波もなく静かだった。

港は、台風のせいかヨットが 4～5 艇停泊しているだけだった。湾奥の公衆便所前に決め、アンカーを少し沖合に落とし込んだ。後で分かった事だが、アルミ製のダンホースアンカーと SUS 製チエ-ン 15m を失ってしまった。残念。
その後、遅い昼食をとった。波浮名物の揚げたてのポテトコロッケとメンチカツ、串揚げ、とても美味かった。

翌朝の朝食の買出しと風呂へ向かった、風呂は元簡保の家の後、町営になったところだ。山の頂上にある、くさやの製造元で買った土産と、スーパーで買ったハムやトマト等を、フロントに預けて、風呂に入った。ジェットバスで肩やふくらはぎに当て疲れを癒した。
次の日の朝食後、裕子さんがジェットフェリーで帰るため下船したので、兄と私の 2 人となり、アンカーを湾内で回収しようとしたが，アンカーが上がらなかった。本船ブイに引っかかっていた為で残念ながらアンカーシートを切捨てて､メインセールを揚げ、港を出た。
出港後、台風後の大きなうねりを受けながら 200～300m沖出し、保田漁港へ向かった。島おろしの風と、後ろからの大きなうねりに乗り、サーフィング状態でまるでモーターボートのようにかっとんでセーリングした。島の横を通過し 2 時間ぐらいで風も少し収まって来た。

勝山沖で、ヨットの横にクジラが浮上して来た。3～4m の背中が見えたと思ったら、潮を吹き、ヨットと並走し、そしてゆったりと前方に消えて行った。時間にすると、ほんの数 10 秒位の出来事だった。多分、ヨットの船底がステンで鏡面仕上げのキールの為、仲間のクジラと間違えて近くに寄って来たのかなと思った。

その後、目印の三角お結び型の山や、ハンバーグの様な山が見えて来た。良く来る保田漁港だー。ほっとした。我が家に着いたような気持ちになっていた。保田漁港の番屋で刺身盛り合わせ、朝取れ鮨、煮魚、ビールで乾杯し、遅い昼食をとった。

18：30 ごろ、風呂と夕食を兼ね、番屋の風呂に行った、ここの風呂の入り口は、いつもの事だが、今日も混んでいた。そして、ここは下足券がないと風呂入場が出来ないシステムだ。風呂の中は少し混み合っていた。夕食時になったが、昼食にたくさん食べたせいかあまり食欲がなかった。しかし、フライと刺身を食べた。

朝食も番屋の朝定食にした。アジの干物を買い、定置網の網元で保田の組合長に会いに行った。昨日のクジラの話を話してから、保田漁港の今後の計画を聞かせて貰った。陸地を購入したので漁港から小山に遊歩道を作る構想だそうである。
保田を出港して、久里浜の 4 本煙突を目標にし，観音崎、その後数時間で YYC に着いた。
あっという間の 2009 年夏期クルージングで、また島に行きたいなーとすでに思っていた。

ＹＹＣ 新会員のご紹介

海宇の高橋さん

皆様、こんにちは。
海宇の高橋です。早いもので　江間先生やブラボーの佐治さんはじめ　理事、会員皆様のおかげでＹＹＣの会員になることができて１年が経ってしまいました。ＹＹＣではよくツナギ姿で作業していることが多いので業者だと思っておられる方もいらっしゃるのではないかと思います。肩身の狭いパワーボートですが、色々な行事に参加させていただき、楽しいマリンライフを過ごせた１年間でした。ヨットレースのことも少し解るようになってきました。レースでの印象的な光景は沖の根からタコ根へ向かって帆走するヨットが次々にスピンを上げて連なる様子です。静寂とゆったりとした時間の流れはパワーボートでは味わえないものがあると思いました。　最後に、１年のうち半分くらい故障状態だった私の船の船名についてお話しします。誰にも読んでもらえないのですが、海と宇宙の宇で海宇と書いてミウと読みます。海の庇という意味ですが、ミウという音から大海原ではミクロな存在ということで　μも掛けています。今後も　海宇と私をよろしくお願いいたします。

KOUMIY の山崎さん

先頃は歴史のある横浜ヨット協会に入会させて頂きありがとうございます。
自己紹介をさせて頂きます。
家族は子供二人の４人家族です。船名は長男航平、長女美帆の名前を取り KOUMIY とつけました。
家族でのクルージングは３回ほど行いましたが、船酔いがひどく嫌われています。
今年は YYC 桟橋よりはぜ釣りをし家族は大変喜んでいました。
趣味はスポーツで特にヨット、ゴルフ、スキー、サッカー、野球が好きです。
仕事が忙しくなかなかスポーツができませんが、正月休みは裏磐梯にスキーに行きました。
仕事はプラント設備設計施工で神奈川化工機株式会社を経営しています。忙しい毎日を過ごしています。
また、今回入会にあたりメンバーの赤井さんと玉井さんに大変お世話になり、厚く御礼申し上げます。
入会して３カ月ですので、右も左も解りませんが、宜しくご指導をお願い致しまして
自己紹介とさせて頂きます。

編集後記

2009年の世相漢字「今年の漢字」は、「**新**」に決定したそうです。理由は、日本では選挙があり、多くの**新人議員**や鳩山**新政権**が誕生したこと、世界的な**新型インフルエンザの流行**、イチロー選手が9年連続200本安打で大リーグ新記録を樹立するなどスポーツ界の**新記録**、裁判員制度やエコポイント、エコカー減税などの**新制度が始まる、**などが理由として挙げられていました。

こうしてみると2009年は、色々な『**新しいこと**』に期待し、不安を感じながら希望を抱いた一年であったと思います。

2009年が**新たな一歩**を踏み出した年であったなら、2010年は**新しい時代**に向かって進む年でありたいと思うこのごろです。YYCも世間の変化とは無縁でいられません。明るい「**新**」の年としましょう。

Ｆｒｅｓｃａ砂原

YYC編集委員
砂原 一夫　鈴木 弘樹　菊池 恵子

Journal of the Yokohama Yacht Club No. １６
発行　２０１０年3月15日 発行者　社団法人　横浜ヨット協会 広報委員会 〒２３５－００１６ 横浜市磯子区磯子１丁目５番１６号 電話　０４５（７５１）１３０４ FAX　０４５（７５１）１３０５ http://www.yyc.or.jp e-mail：postmaster@yyc.or.jp